

目 次

序

目 次

1	調査経過	3
2	南大門の歴史	4
	（1）興福寺創建と南大門	4
	（2）平安期～近代の南大門	4
	（3）南大門の年中行事	5
	（4）南大門の建築	6
3	遺 構	7
	（1）造営前の地形と整地	7
	（2）南大門	8
	（3）その他の遺構	19
	（4）近代の削平と修築	19
4	出土遺物	20
	（1）瓦磚類	20
	（2）土 器	22
	（3）金属製品・銭貨	23
	（4）SX9361出土鎮壇具容器の内容物	24
5	自然科学的分析	26
	（1）鎮壇具容器内の有機物	26
	（2）鎮壇具容器内の魚類遺存体	27
	（3） ¹⁴ C年代測定結果	28
6	結 語	31
	報告書抄録	32

例 言

1. 本書は興福寺境内第1期整備事業にともなう平成21年度発掘調査概要報告書である。
2. 調査は興福寺の委託を受けた独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部（平城地区）が、平成21年7月13日から12月22日にかけて実施した。
3. 調査は、箱崎和久・馬場 基・森川 実・芝 康次郎・森前一貴が担当し、韓 志晩（東京大学大学院）・三岡由佳（名古屋大学大学院）・宮原敦子（同志社大学）が参加した。
4. 調査にあたっては、文化庁、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会の協力を得た。
5. 本調査は、都城発掘調査部（平城地区）の平城第458次調査として実施したもので、各遺構には平城京左京における調査基準にしたがい一連の番号を付した。発掘遺構図の座標値は、世界測地系（平面直角座標系第VI系）による。
6. 本書の作成は、当調査部長・井上和人の指導のもと調査員全員があたり、全体の討議を経ておこなった。編集は森川 実が担当し、各項は執筆を分担した。なお、5（1）は金原正明氏（奈良教育大学）に執筆を依頼し、5（2）は当研究所研究員の山崎 健が執筆した。
7. 遺構・遺物の写真は、牛嶋 茂・中村一郎・杉本和樹が撮影した。